

# 天竜区舞台に妖怪漫画 まるかわさん

# 販促品や本の表紙で活躍



漫画「よろずの候」とコラボし、天竜茶の新茶販促用のトートバッグを作った一産山本園の山本忠弘さん  
＝浜松市天竜区二俣町

さん(28)＝写真＝書き下ろしの妖怪イラストを使ったグッズ開発や本が発売されるなど、新たな動きが出ている。



静岡県文化芸術大(中区)出身の漫画家まるかわ

浜松市天竜区を舞台に人と妖怪との触れ合いを描いた漫画単行本「よろずの候(こう)第1巻」が2018年11月に全国発売されて約半年。地元では作者で静岡文化芸術大(中区)出身の漫画家まるかわ

## 地域と連携 相乗効果に



まるかわさんが表紙絵を描いた浜松市天竜区春野町の昔話を集録した本「春野のむかしばなし」＝同区役所

＜メモ＞隔月刊誌で連載中の「よろずの候」では浜松市天竜区二俣町の商店街だけでなく、阿多古(あたご)地区の話や挿絵で同区春野町の大天狗(てんぐ)面、廃トンネルを活用したワインセラーなど幅広く描いている。また、今月19日発売の月刊誌「ウルトラジャンプ」には同区の地域おこし協力隊「浜松山里いきいき応援隊」の女性をモデルにしたまるかわさんの読み切り漫画が掲載される予定。

まるかわさんは同大在学中に天竜区二俣町の秋野不矩美術館を訪れた際、「山川に囲まれたのどかな雰囲気のある商店街と住民の人柄に区内の町角の景色が

感動した」という。隔月刊漫画誌「ウイングス」で17年4月から現在も連載を続けている「よろずの候」の背景には

アルに描かれ、地元住民や出身者の中で話題になっている。同町のクローバー通り商店街にある創業141年の老舗茶店「一産山本園」5代目の山本忠弘さん(38)は新茶シーズンに合わせた販促グッズとして、漫画キャラのイラスト入りトートバッグを作った。山本さんの「天竜茶の認知度を向上して地域を活性化したい」という思いにまるかわさんが共感し、店舗前のベンチに座る子青鬼の絵を書き下ろした。4月下旬ごろから出荷する新茶購入者にプレゼントする。商店街の書店「天竜谷島屋」のレジ横にはサイン入り色紙が飾られ、単行本が平積みされている。店員の鈴木敦子さん(74)は「売れ行きは好調。親しみやすいまるかわさんの人間性も好き」と笑顔で話す。

3月下旬にはまるかわさん母校の同大文化政策学部の学生3人が、同区春野町に伝わる昔話を地域の高齢者から採録調査してまとめた「春野のむかしばなし」を出版。表紙絵

をまるかわさんが担当し、昔話や伝説に出てきた妖怪や伝説に出てきた大蛇やヤマメ、妖

怪をかわいらしく描いた。地域全体がよろずの候を応援し、相乗効果(天竜支局・松本直樹)

果を生み出しつつある。